



第七卷 第二號

館所 民書 館館 和
行公 圖集 行入 所 和
城村 編集 編行 人 所
方城 編木 印刷 合資 會社
荒 田 田 印 合 資 會 社
冷 牟 田 印 合 資 會 社
八 幡 市 折 尾 町 国 道 筋

納税完納強調月間について

役場 財務課

御承知の事と思いますが本年(會計年度)も後余す処本月一ツパイとついで毎年御協力を願って居ります納税についてであります。現在本村の納税成績は八二・二%で昨年同様に比較致しますと、昨年を一〇〇%として八九・七%で納税成績は低調であります。これを金額に致しますと、全調定額二五、六〇九千円に対し現在(二月末日)収入済額二、三〇九千円未納額四、三〇〇千円あります。これらの税収入は歳入の大部分を占めて居ります。



可愛い、

一年生の入学式

学校教育係

四月には愈々小学校新一年生が入

伊方校は四日で男子三三三名、女子一三四名が、弁城校は五日で男子三九名、女子三一名で計五二七名がそろい入学します。受付は午前九時からです。当日は学校へ必ずお連れ下さい。若し色々の事情のため(例えば重い病気をした、くめ体が弱い場合)に入学出来ない時はなるべく早目に教育委員会事務局までお届け下さい。

少なくとも一千五百万円に達する膨大な経費を必要とする実状にありま。幸にして本村は皆様の御協力により村税の納税状況は毎年優秀なる成績を収めて居り、昭和二十六年、二十七年共に納税成績優良村として全国に誇っているのですが、本年に於ても之を保持し昨年よりも更に良い結果を得たいと職員一同奮闘致しているのではありません。

以上のような本村の現状でありますので何分共皆貴方の方の絶大な御協力を仰ぎ度いのであります。この意味に於きまして三月一日から三月三十一日迄を村税完納強調月間と定め村税の百パーセント徴収を目途として皆様の愛郷心に訴へ心からの御協力によりまして滞納の一掃に努めたいと存じます。

この際未だ納税されていない方は、進んで納税される様御協力をお願い致します。尚期間内に税金を完納されない者については止むを得ず国税徴収法の規定により財産差押処分強行の余儀ない状態に立ち至りますので右指定期限までに完納される様重ねてお願い致します。

昭和三十九年三月六日午後、時より左記の案件について臨時議案を開催した。(原案可決)

村議会

昭和二十八年年度方城村歳入追加予算案



赤痢予防に

ついて

役場 衛生係

皆さん私達は今まで赤痢は夏の伝染病と思つて居りましたが、近頃では年々冬の赤痢患者がふえて居ります。これは夏に赤痢にならない様注意

しても冬には不注意になり勝ちであるからであります。赤痢にかゝらないように皆様次のごらをよく覚えて守って下さい。
①手洗を励行致しましょう。(特に食事前の手洗の習慣をつけましょう)
②糞、尿の駆除に努めましょう。
③生もの、生水、飲食に注意しましょう。
④暴飲暴食を避け、胃腸を丈夫にしましょう。
⑤熱の有る時や、お腹のわるい時は早くお医者さんに見てもらいましょう。
⑥健康診断時に検便検査を致しましょう。
皆さん終戦以来伝染病は非常に少く
同組合、福岡県信用農業協同組合連合会
3 方城村国民健康保険運営協議会委員選任の件
一、公代表委員 長尾農作
4 田川郡香春町外十四ヶ町村共有に係る左記土地の一部を福岡県へ売却するものとする。
記
田川郡添田町大字中元寺字大藪東百六拾番地の地
一、山林五町六反一畝歩の内
五反五畝拾四歩(一、六六四坪) 昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針
昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針
昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針
昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針

教育委員会

二月二十日午前九時開会次の件について議案の午後三時閉会した。
第二号議案
昭和三十九年度末公立小・中学校教職員異動方針
教育の振興充実を図ることを目的とし人事異動を行う。
第四号議案
昭和三十九年度末人事異動斡旋基
第五号議案
昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針
第六号議案
昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針

歳入

農業土木費 五五八、四五〇円
指定寄附金 五九、二〇〇円
前年度繰越金 六〇、〇〇〇円
歳入合計 六七七、六五〇円

歳出

耕地関係 六一七、六五〇円
農業土木費 六〇、〇〇〇円
利子償還金 六七七、六五〇円
歳出合計 六八七、六五〇円

2 一時借入金に関する件

地方自治法第百二十七条の規定による一時借入金の借入限度額及び借入先を左記の通り更正するにつき承認せられたい。

- 一、借入金額 四百万円
- 一、借入先 大蔵省資金運用部短期資金、福岡銀行金田支店、方城村農業協

田川郡添田町大字中元寺字大藪西

- 百六拾六番地の地
- 一、山林五町六反一畝歩の内
- 五反五畝拾四歩(一、六六四坪)

昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針
昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針
昭和三十九年度学大卒業生就職斡旋方針

第七号議案

昭和二十九年定員配当協賛案
第八号議案
昭和二十八年度未退職、転補、採用に関する取扱基準案
第九号議案
人事関係行事予定について

方城村立図書館 (1)

中島 義章

方城村には立派な村立図書館がある。「図書館」という字を見ただけで大変固苦しい感じを受ける人が多いらしい。そういう偏屈そうな記事は読むのを止めて、もっと面白そうな記事を探そうが人情である。そういう偏屈な感じを抱かせる様になったのは、取りも直さず代々の図書館人の責任なのである。

その責任者の端くれである私が、又此処で、どんな固苦しい記事を書いて皆さんの御機嫌を損じようとするのか。

ある偉い人が最近私にこう云った。「図書館の本なんか本屋の通りに並べておけばいいんだ。たかが本の番人じゃないか、小娘一人でも勿体ない位だよ」皆さん！私は何と答えたらい、のしようか。

一人々々が図書館を利用する権利を持つてゐるのである。何等かの形で図書館の恩恵を受けねばならないのである。若し皆さんの大多数が偉い人と同じ事を持つてゐるなら、私は当然タビになり、失業保険金でも貰わねばならない。そして図書館は、つづして本屋でも開業する？

方城村のある限り、これらの出土品は大切に取扱われ、陳列戸棚の中で次々と子孫に受け継がれて行くに違いない。方城村の先祖を知ろうとする熱心な人々のために。然しこれも「そんな古墳をいじってどんな値打ちがあるのか？金がかゝるだけぢやないか、そんなものはボタの下に埋めてしまふ」という人に反対する人が沢山居ての話しである。

- 一月出生者
- 永末 圭 福島和則 徳永 勇
 - 宝田裕子 川村 清 西村文良
 - 藤木弘子 松井和昭 北川美子
 - 原田伸一 今仁ゆき子 上村教司
 - 白石 要 山崎靖子 今村千鶴子
 - 田辺政博 鈴木あけみ 越智律子
 - 沓形正子 塚口安男 中山孝則
 - 原口教義 仲山三千代 久保正文
 - 高津晴美 片桐武士 住吉禪子
 - 仲村正一郎 本谷 修 下坂元勇二
 - 熊谷代志子 葛原清則 筑後幸恵
 - 榎木静則 山本弓子 平塚祐介
 - 山下美代子 宇都明美 辻越太郎
 - 久富 京 熊谷善博 森本 寛
 - 山田勇治 田辺浩二 錦戸好久
 - 原田美穂子 中島和子 湯田敬子
 - 原田留子 原田広美 和気美千代
 - 川島厚子 山本達也 沢田真理子
 - 諫山恵美 佃 昭生
- 一月出生者
- 峰 満幸 中山瑞穂 久富小百合
 - 奥田弘一 水上 清 高下友直
 - 長谷輝明 西田義隆 新川床由美子
 - 堀川順子 渡辺明子 柿元よし子
 - 有馬優子 山本林一 高錦伸一
 - 朝部睦輝 島田祐一 折口貴美子
 - 小原文男 松本美恵子 植田秋彦
 - 薬師寺 隆 野田正城 小松正治
 - 田上謙二 原田加代子 蔦野悦子



新しい村民

隨筆

文化村の條件 (1)

文化と表彰

関 沢 政 木

他人の欠点は長くわかる。一人一人組上にあけてこれをこき下し毒づくのは易しい。その反面自分の欠点はなかくわかり難い。自分を甘やかすからである。然し自分の欠点は人が指摘してやつつけて呉れる。それでありこである。だから安心して他人の悪口を云うことが出来る。たゞ、誰でも自分の主観の上に立つて物事を判断するものである。その



主観が素直さを失っている場合、その批判も当然素直さを欠いて来る。環境、躰け、生活、教養、知識、性質、智慧、経験、年令等々主観を決定づける諸要素が各人各様である以上、それを基礎として派生する批評もまた各等各様でなからねばならない。これが序言である。と書けば聞こえはいいが、正直なところ、悪口

昭和二十七年十一月、方城村公民館は優良公民館として表彰された。そして翌二十八年、方城村はまた優良村として表彰された。一部の人は文化方城村だから、文化方城村だから、と口癖の様にわめき、何でも文化文化に結びつけて得意

にならうとしている。然しこれは誇大妄想も甚だしと云わねばならぬ。表彰された方城村公民館の中には、文化という字は含まれていないということである。成程各部落毎に公民館の数は三を数えているやに聞いている。然し、恐らくこれに備員公民館でござい、他町村の人々に鼻高々と云える状態かと私は云いたい。心ある村民は、方城村公民館が表彰されるということを知りて、恥しさに顔を赧らめたと云うて、果してこんな公民館が表彰されてい、のであろうか。表彰された後面子を保つのに、一苦勞するであらうことを思つて、眉をひそめたのは私だけであらうか。

備員村としての方城村の表彰。この中にも恐らく文化という字はどこにも見当たらない。健全財政で借金がない。納税成績が良い。選挙の投票率がよい。そして公民館も表彰されている。こういう村を表彰しておけば、まあ無難だろう、というところだろうか。折角組んだ予算の表彰費を次年度に繰越しても仕様がなから、どうせどこかにやらねばならんが、ということで白羽の矢が立てられたのである。と私は見たが、果してひねくれた見方であらうか？

二つの表彰を以て方城村の上に文化という字をつける理由にはならないと云いたのである。表彰は受けた。而も村民の中に私の様な人間が居たということも、そもそも方城村にとつては悲劇でなくてなんであらう。二つの表彰を、誇らかに喜んで受ける気持ちに私があるには、方城村の

状態はどうあらねばならないのか！ 思いつくまゝに次々と書いてみた。村民税三〇〇円、固定資産税四、一八〇円、国民健康保険税一、〇二〇円、これが私の村に対する納税額である。合計した五、五〇〇円である。こればつちの税金を納めて余り大きな事を云う権利はないかも知れない。然し方城村一六、〇〇〇人の中の一人には違いない。金田町民でもなく、田川市民でもない。民

先進地視察記

主政治の現任、村民の一人として、さ、やかながらでも思うことを述べ、権利はあるのだらうと思う。一六、〇〇〇分の一の発言権からはみ出して、喋り過ぎるかも知れないが、良識ある村民皆さんの御寛容を願つて止まない。若皆さんが「黙れ！」となりつづけるなら、不本意ながら私は、憲法第二十一条の言論の自由の保障を楯に、独りよがりな続けをみた。以下次号

三日間の奉仕を終り、二十五日から千葉葉を振り出しに、先進地行脚に出発する。先づ途中、成田の不動様に参詣して、下総の御料牧場を訪ねる。列車の時間が非常に切迫していたため自動車走らせて千葉葉畜場をのぞき、修練農場にて中食し、場長の経営の概況と農場を見て、車を急がせて駅に、それから又上野まで引きかえして高崎行きに乗る。汽車で約一時間一寸で、高崎市に着く、それよりバスで箕輪の群馬県立修練農場を訪う、今夜の宿泊地は此処である。福岡から農村青年三十名が来ると云うので、利根郡の四日クラブ員六十名と篤農家十数氏が集り懇談会である。在室中は毎晩就寝は十二時だ。だが今夜位は早く休みたいのであるが、切角の先方の厚意をことわるわけにもゆかず座談会に出席する。

り約三反歩の畑を貸して、それから一年、反に約二万円を割当て、それだけを学校に納入すれば、それで授業料も食費も賄なう仕組みになっている。農業教育として非常に新しい行き方で生徒も学びつ、それを真剣に実践していく、と云う効果のある教育方法だと思つた。総べての農業大学に、この方法の採用される日の来る事を祈つて止まない。それから夜の江の島を一寸見て、汽車で一路名古屋へ。

今宵の宿泊は車中である。朝、眼が覚めたら新名古屋だった、乗りかえて日本デンマークの中敷をなす安城市に降りる、先づ市役所を訪ねて市の農務課長から詳しく安城市の生い立ちを聴く。今から何百年か前までは「安城が原」と云う原野だったそうであるが、あの明治用水を生んだ先人の出現に依つて、原野は沃野と姿は変つてい。そして明治年間に至り、日本の農聖と仰がれる、山崎延吉先生の誕生によつて、日本のデンマークと云うたわれる様になつたと云はれたが今日では戦争と云う大きな障害の為に組織作られていた生涯、集荷、出荷網が旧に復しない事を歎かれておられた。

市役所のバスに依つて、二、三典型的なモデル農家を見るが、私達の眼に映じたものは、原価計算もせずして、収支の内容も検討が加えられない、いわば放任経営としか想われぬ。愛知県の農業と云う事で、非常に期待して来たが、いさゝか失望したが、之で総べてを律する訳にも

いくまい。山崎延吉先生の自宅を訪問して先生に逢う。齡すでに九十と云はれたが、未だ要録として、話し振りにも往年の意気を汲み取る事が出来る。一緒に記念写真を取つて、それから農協を見るが、一つの単協で組合員六百人を持ち、加工場の面は美に至れり尽せりでパンから菓子加工迄やっているが、農協が此処まで来れば農民の足も勢い農協一本に向くのではなからうか。

安城に別れをつけて岡崎の追進農場を訪ねる。此処では、十四年まで県立種畜場と併設されていたが、種畜場が独立して分離したので、現在の追進農場は主として、農家の子女の教育で、唯今男子八十名、女子七十名の生徒を収容しているが、此処でも新しい時代に於ける大地に立脚したところの農業教育の如何に苦しみ多いものか云う事を見せられた。

岡崎市明大寺町の白菜作り日本一の大田純一さんを訪う。氏は連床栽培の権威者で、創始者でもあると云う事である。五反の畑に十八年間連作していると云う事を聞かされて、二、三年作つて出来が悪くなると、それを連作の故に持つていて、それを克服しようとはしなかつた自分達が全く恥ずかしくなつた。結論として有機質の徹底的な多施に依つて、十八年間も連作の可能を示している。

現在の学生気質はすべてが革新的で、今迄の古い物事は何か価値のないものとして押しやり、それかと云つて新しい確りした足場を持つていないと、結局デカダンのものが流れていると歎かれ、今日の農村を見るに農業理論家が多くて、実践家が少なくも知れぬが、結局其辭をなすものは、確りした地についた者へ方だ。自らの位置を本當に識つて自らを卑下する事なく、高い希望と矜持を持つて進まれる様との話があった。今夜は寮で久し振りに足を充分延して眠つた。朝目が覚めて見ると雨降

しづく出席したのであるが、いよいよ会が始まつて見ると、仲々に活発な質問、討議が展開されて夜の更けるのも忘れ進行された。場長にこの様な社会状況の下で主として、精神教育に重点をおく修練農場として、教育の根本理念を質問せしに、生徒と共に生活しながら、人間愛を通して感化して行く云われたが、之れが為て先生の私生活は殆んど犠牲に供している模様を聞き、次代の農村を背負う青年の育成に、心血を注いでいられる尊い人々の実在を知り、非常な心強さが心底から湧き上る気がした。会を閉じたのは一時近かつた。

翌日十時迄場長を囲んでの座談会と農場見学迎えのバスが来たので、それで高崎まで、今日は藤沢だ、日本大学の農学部でやっている生産教育研究所を見る。此処では生徒一人当

り約三反歩の畑を貸して、それから一年、反に約二万円を割当て、それだけを学校に納入すれば、それで授業料も食費も賄なう仕組みになっている。農業教育として非常に新しい行き方で生徒も学びつ、それを真剣に実践していく、と云う効果のある教育方法だと思つた。総べての農業大学に、この方法の採用される日の来る事を祈つて止まない。それから夜の江の島を一寸見て、汽車で一路名古屋へ。

今宵の宿泊は車中である。朝、眼が覚めたら新名古屋だった、乗りかえて日本デンマークの中敷をなす安城市に降りる、先づ市役所を訪ねて市の農務課長から詳しく安城市の生い立ちを聴く。今から何百年か前までは「安城が原」と云う原野だったそうであるが、あの明治用水を生んだ先人の出現に依つて、原野は沃野と姿は変つてい。そして明治年間に至り、日本の農聖と仰がれる、山崎延吉先生の誕生によつて、日本のデンマークと云うたわれる様になつたと云はれたが今日では戦争と云う大きな障害の為に組織作られていた生涯、集荷、出荷網が旧に復しない事を歎かれておられた。

りた。大学正門前からバスで講の駅まで、此処で約五分ばかりあった。こゝで我々のこの旅行中の最初に、且つ最後の厄にあった。総務のカバンを置き引きにあった。全く旅に出ては油断がならない。それから奈良に出て奥平を訪れ、奥田知事に来意を告げたが、生憎と衆議院からの災害視察の為に不在で、副知事室にて奈良県の農業の概略をおうかがいし、知事提供の観光バスで史跡を見る。今更乍ら古都の感を深くした踵を返して、うねびの奈良試験場を訪う、窗外は漆黒の闇である。

空腹に仲々場長の話等耳に入らぬ、特産の西瓜を出されたが時期はづれの為か、あまりうまくない様だ。そこそこ辞して宿舎であるうねび館に帰る。

試験場から西瓜担当の技官と農業薬剤の技官が二人来て呉れて、食事が済んでから座談会である。

此処で一つ大きな収穫は西瓜の根虫に見当勧注すれば、完全に駆除出来、一週間を経過すれば無害だと、奈良農式と名古屋大学ですてに実験済みである事を発表された。品種としては、新旭とつのが大体新品種として注目されているとの事である。種子等も果で輪旋して貰うべく頼んで、一つのつなぎを作る。

今夜旅行中の始めて旅館での夜をあかす。券番も兼ねているこの旅館は戦争中は流行したのであらうが、今では滅多に泊る客もない様だ。翌日自分だけ別行動を取る。折角奈良まで来たので郡山による。朝、橿原神宮とうねび御殿に参る。

そして電車で郡山まで。日本でも最も古く、且つ盛んな養魚地である。現在は殆んど金魚専門に切りかえていると云うが、非常に水利の便が悪く、鯉には適さない。南郡山の方では若千鯉もやっている。

それに此処ではすっぽんも養殖している。鯉の養殖についても非常に得る所が多かった。

現在金魚は外貨獲得の一翼を担って一年に相当敷海を渡ってアメリカに興入れている。

何人かの先覚に依って、此処まで来るには相当の年月がかかっている。積る心を残しながら、先の落ち合う時間が気にかかると、十一時過ぎ此処を辞し、京都行き急行電車で京都へ、今まで大勢といたのに一人になって行動して見ると心もとない気がする。一時に京都駅と云う事だったが、仲々大阪へ行った連中は来ぬ、余程赤間知事から歓待を受けているのであらう。

駅前出発の観光バスが一時出発なので十分位待つて貰った。来ぬので折角の京都を素通りも情けないとバスの人となつて一通り観光する。

京都の人は落ち着いて丁寧である。宮城の中で逢った人々と同印象を受けた。大宮人の流れであらうか。京都駅発 十九時五分で、之で皆と顔を合はせる事が出来た。大阪は案にたがわず大変な歓待だったらしい。知事が津屋崎出身であるため、不埒ではあったが云い残していたのであらう。福岡県人も色々な面で見えん人人が多い。

そんな人々も家郷は忘れ難いものであらうか。雑駁な百姓青年の連れにさき、この様な扱いをして貰えるとは。扱って奉仕を加えて、十余日の間に全始めての土地が多かった為、見るもの、聞くもの目新しいものが多かった。振りかえって我が方城の現況を思い合せる時、石炭が頼みの綱にて若しこの命脈が断られた時、方城の運命もそれ迄だと見る向きが強い様だがこの地下資源も無制限のものではあるまい。

此処らで新しい村の行き方と云うものを真剣に考える必要があると思ふ。かつて香川県の仁尾町の輸出唐辛子の産地を見た事があるが、何人かの先人に依って始められた唐辛子が、現在の人々の非常な努力によって隆盛を招来している。今度見た郡山の金魚もその様な感じを受けた。一つの特産を産み、地方産業を興すと云う事は大変な努力を要するが、之を短時間で捻出せる為には当局の絶大の心やりが必要である。

今非常に不安定な職業園芸で、一向に延ばないと云うのは、人が良かったと云えばそれを作り、悪かったと云えば止めてしまつたり、何人かの人が儲けたと云えば例外なくその真似をして、技術の会得出来ぬため苦汁をなめる羽目に追はれる、そんな一つとして前進の出来ない行き方よりも、何か安定した作物を見つけて、全力を傾注出来るものが見出せば、その栽培技術はきつと長足の進歩をなし、地方特産にまで進むものではないだらうか。その土地、その条件にかなつたものを見つけて出し、それが販路に大きな道があればき

つとそれは特産まで進む事疑いなしだ。全村をあげて、之が研究に當って方城ならでのものを作り出したいものだ。現情の俣の推移にまかせたならば何年の後か、何十年の後か鉱脈と運命を共にしなければならぬ事は、火を見るよりも明らかである。

次に二、三男の問題である。丁度我々が京中に中央開拓会館で国際農友会の総会が開かれ、会長羽根博士より、東南アジアの現状について熱のこもつた話があった。

結論として「東南アジアは日本農民の手によって開拓される事を希んでいると、然し乍ら日本人が一旗奮つよう、そして故郷に錦を飾らうと云う様な気持では世界から閉め出される。入植したならばその国の、その士になる決意でなければ何処の国も招来しては呉れぬ」と結ばれた。終つてアメリカのテキサス州出身の西原さんが、丁度五〇年振りに帰国して、この会があると聴いて来たと言はれて出席しておられた。テキサス州を日本人の手で沃野にする覚悟で、五十年前相当の移民を連れて西原さんのお父さんが、同志社大学の学長の職を投げうって渡米されたと言うが、連れて行って入植した者は今日では僅か何人かの人が止まらなつたのみで、故郷を忘れ得ずには挫折したと云う事である。「日本人の故郷を愛する心は長所でもあり、今後の植民事業の為の大きな隘路でもある」と述べられ「私の息子は、入植してアメリカの為に拵けている、入植したならば、その国を自分の国として愛する事だ。そうすれば世界何処

の国に行つても決して排日は起らない」と、自分の身を以て語られた言葉はとつくと流暢ではなかつたが、今日の開拓指導にたずさわる人の心に銘記せねばならぬ玉言であつたと思ふ。

俳句 イワタンの印象 に深し、乳仏塔

落し穂集より
役場 永末

この句は在細句中、イワタン町に駐留していた時の作であるが「乳仏塔」の伝説について記してある……「サガイン」に起点を発して「ミイトキナー」線を「イエウ」の分岐点「イワタン」駅がある。北上すると五哩、大きい部落の右入口に世にも珍らしい乳房型の純白の巨大な「パコダ」が旅人に目を見張らせる。「シユエボ」街道を行く人々には敬々しく祈り作ら通る、之が名高い「乳パコダ」で「サガイン」王朝時代、王には一人の世にも美しい姫が居られた。美しく気質の優しいこと云うに及ばず王の可愛がられる事並々ならず、姫もすくくと成長された。そして王と主姫とは幸福に暮らされていた。

年頃になられた時、姫は病気になられ遂に王の腕に抱かれ、世界を離れた。王の歎きは一方ならず、世の無情を恨まれた。日夜忘れ難い姫の霊を祀り、王は見事な乳房型のパコダを建立され、遂に又淋しく姫の後を追って天国を旅立されたのである。今尚北細の上空に姫の霊を示唆する

如く、又親子の愛の表徴として、悠然と輝いて近郷の人々や途行く人々の信仰の的となっている。

二月分図書閲覧統計

開館日数 24日

| 職業別閲覧者数 | 男 | 女 | 計 | 一日平均 |
|---------|------|------|------|-------|
| 史職 | 39人 | 29人 | 68人 | 2.8人 |
| 公職 | 28人 | 0人 | 28人 | 1.2人 |
| 農業者 | 13人 | 0人 | 13人 | 0.5人 |
| 学生 | 1人 | 15人 | 16人 | 0.04人 |
| 生徒 | 38人 | 51人 | 89人 | 2.7人 |
| 他職 | 5人 | 1人 | 6人 | 0.3人 |
| 計 | 176人 | 107人 | 283人 | 11.7人 |

分類別閲覧冊数

| 分類別 | 男 | 女 | 計 | 一日平均 |
|------|------|------|------|------|
| 記学 | 10冊 | 5冊 | 15冊 | 0.6冊 |
| 史学 | 3冊 | 3冊 | 6冊 | 0.1冊 |
| 自然科学 | 18冊 | 0冊 | 18冊 | 1.2冊 |
| 社会科学 | 25冊 | 11冊 | 36冊 | 1.1冊 |
| 文学 | 4冊 | 0冊 | 4冊 | 0.3冊 |
| 芸術学 | 4冊 | 0冊 | 4冊 | 0.2冊 |
| 工学 | 9冊 | 0冊 | 9冊 | 0.3冊 |
| 農学 | 34冊 | 24冊 | 58冊 | 2.4冊 |
| 言語学 | 6冊 | 2冊 | 8冊 | 0.3冊 |
| 計 | 132冊 | 83冊 | 215冊 | 9冊 |
| 計 | 247冊 | 135冊 | 382冊 | 16冊 |

編集後記

一、事情により第 三 号の発行ができなかつたことを深くお詫言ひ申し上げます。

二、公民館主催、遠入たつみ先生俳句大会が、十八日実施されましたが、第三号に掲載致します。